



# 虹のかけ橋

\* \* \* \* 第41号/平成29年10月

兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

## 「居場所づくり」と「絆づくり」

県立但馬やまびこの郷では、不登校児童生徒の支援を中心に進めてきたこれまでの研究を基盤に、新たな不登校を出さない「不登校の未然防止」についての研究を今年度からの3カ年計画で推進します。平成29年1月に国立教育政策研究所が公表した第三期「魅力ある学校づくり調査研究事業」(平成26年度～27年度)の報告をもとに、協同研究地域及び協同研究校とともに研究を進め、どの学校でも取り組める「未然防止プログラム」の作成を進める予定にしています。研究の概要については、今号以降の「虹のかけ橋」でも紹介していきます。

今号では、国立教育政策研究所の報告で述べられている「不登校の未然防止」のための基本的なコンセプトを紹介します。

「不登校数を減らすための取組」といえば、一般的には「前年度の不登校児童生徒を学校に復帰させる取組」を連想しがちです。しかし、不登校状態にある児童生徒を学校復帰させることは容易なことではなく、また、学校復帰が好ましい選択肢でない状況の児童生徒もいると思われます。もし、「不登校数を減らすための取組」を推進するのであれば、まず、新規数の抑制を図ることが現実的であると言えます。不登校の新規数を抑制する「魅力ある学校づくり」に取り組む際のコンセプトは以下の2点です。

① 「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、バランスよく取り組む

**居場所づくり** … 学級や学校をどの児童生徒にとっても落ち着ける場所にしていくこと。  
(教職員主導)

**絆づくり** … 日々の授業や行事等において、全ての児童生徒が活躍し、互いが認め合える場面を実現すること。  
(児童生徒が主体、教職員の役割は場と機会の設定)

全ての児童生徒の  
「心の居場所」  
となる学校

そのために

教職員が、児童生徒が安心できる、  
自己存在感や充実感を感じられる  
場所を提供する  
【安心安全な学校づくり】

全ての児童生徒の  
「絆づくりの場」  
となる学校

そのために

児童生徒が、主体的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り、  
紡いでいく  
【場と機会の設定】

② 行事だけでなく、授業をはじめとしてあらゆる教育活動で取り組む

「児童生徒の主体的な取組」といえば、特別活動や総合的な学習の時間等を連想しがちです。しかし、行事等の単発の取組で「安心安全」や「絆」が全体に定着するではありません。定着のためには、学校生活の大半を占める授業時間の中で「居場所づくり」「絆づくり」に取り組む必要があります。

# 教室でできる関係づくりの「王道」 ステップ。その1

名城大学教授 曽山 和彦

私はこれまでの実践・研究を経て、教師と子ども、子ども同士の「関係づくり」こそが学校現場における様々な課題を解決に導く『王道』(正攻法の基本型)という思いを強くしています。その思いの検証に向け、今年度より複数の小中学校の協力のもと、「かかわりの力育成プログラム開発」<sup>\*1</sup>に着手しています。私の実践・研究の「現在地」から、本稿では「現代の子ども像と支援の基本方策」、次稿では「関係づくりの具体方策」について紹介します。

\*1: 教師が日常的に活用できる「かかわりの力」育成プログラムの開発 研究費基盤研究 (C) H29-H31



## ⑪ 現代の子ども像と支援の基本方策

皆さんが今、かかわりをもっている子どもたちの中に、褒めても認めて、「どうせ」という子はいませんか？また、「うざい」等の言葉を頻繁に使う子はいませんか？これらの状況を専門用語で整理するならば、「どうせ」を口にする子は、自尊感情（自己評価の感情）が低く、「うざい」等を口にする子は、ソーシャルスキル（人付き合いのコツ・技術）が乏しい状態にあると考えられます。人とか

### 現代の子ども像と支援の基本方策

- 自分にOKと言えなければ、他者には尚更OKとは言えない。自分を大切にできなければ他者は尚更大切にできない。  
→ **自尊感情(自己評価の感情)**を育もう！
- 他者とかかわる技術・コツがなければ他者を大切にできない  
→ **ソーシャルスキル**を育もう！

家庭、地域の教育力が以前に比べ、ぐっと落ちています

気になる子が昔以上に気になる理由の一つがここにあります

キーワードは**自尊感情**と**ソーシャルスキル**  
どちらも**かかわり**の中でしか育たない  
人が人になるには人が必要

↑  
学校存在の意義 = 人を人にする最後の砦

かわる際に必要な力は様々に想定されますが、私は、これまでの実践・研究から、「自尊感情・ソーシャルスキル」の二つが、かかわりの力を構成する「双璧」と捉えています。自分に程よく「OK」と言えない子が、周りの子に「OK」と言うことは難しいでしょう。また、「ありがとう、ごめんね」等を言えない子が、周りの子とよい関係を築くのは難しいでしょう。通常学級において「気になる子」の存在が昔以上にクローズアップされるのは、子どもたちの自尊感情

の低さ・ソーシャルスキルの乏しさが解消できないからではないでしょうか。

では、なぜ、子どもたちの自尊感情やソーシャルスキルが、今、これほど気になるのでしょうか？それは、どちらもかかわりを通してしか育たない力だからです。「人が人になるには人が必要」という言葉があります。一昔前のように、3世代同居の多かった家庭状況、隣近所の人のことがわかる地域状況であれば、一人の子どもにかけられる大人の「褒め・叱り言葉」が日常的に多かったと言えるでしょう。しかしながら、現代は、家庭も地域も以前とは様変わりし、子どもにかけられる大人からの言葉は格段に減ってきております。さらに、携帯ゲーム等の「一人で楽しめるツール」の出現は、子どもたち同士がかかわり合う遊びの時間をかなり奪い取ったとも言えるでしょう。そのような現代に生きる子どもたちの自尊感情やソーシャルスキルが気になるのは当たり前…、今、私が捉えている「現代の子ども像」です。そして、その「姿」を前に見えてくる支援の基本方策が、子どもの自尊感情やソーシャルスキルを育む「関係づくり」であり、そこに「学校存在の意義」があるということ、「人を人にする最後の砦が学校・教師である」ということ…これが今、私が声を大にして先生方に伝えたい実践・研究の「現在地」です。

## ② 関係づくり 3ステップ

「関係づくり」の研究を進めるにあたり、私が大いに学ばせてもらったのが愛知県刈谷市立依佐美中学校の実践であり、その実践プロセスをもとに創り上げたのが、「関係づくり3ステップ」です。次稿では、3ステップを具体的に紹介します。

### <関係づくり3ステップ>

1. 「一枚岩」の体制をつくる
2. 「関係づくりの花火」を打ち上げる
3. 「関係づくりの火」を灯し続ける

### <参考文献>

- ・教室でできる関係づくり「王道」ステップワン・ツー・スリーⅡ. 曽山和彦. 文溪堂

### ◆◆筆者紹介（曾山 和彦／そやま カズヒコ）◆◆

群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。博士（社会福祉学）

東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事、名城大学准教授を経て、現職。学校心理士。ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校におけるカウンセリングを考える会代表。

著書に「時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング」「教室でできる特別支援教育 子どもに学んだ『王道』ステップ ワン・ツー・スリー」編著書に「気になる子への支援のワザ」ほか多数。

# 不登校担当教員研修会実施報告

平成29年5月23日(火)県立但馬やまびこの郷にて、不登校担当教員研修会を実施しました。県下の不登校担当教員60名、公開講座受講者43名、合わせて103名の参加がありました。

## 《公開講座》

1 演題 「明日からすぐに使えるマルチレベルアプローチ  
(包括的支援)で不登校対策」

2 講師 神戸親和女子大学 教授 金山 健一 先生

3 内容

### ① 日本が危ない(2015年統計)

- ・引きこもり54万人
- ・ニート56万人
- ・フリーター155万人
- ・不登校(小・中) 12.6万人
- ・不登校(高) 5.0万人
- ・高校退学者 4.9万人
- ・加害児童生徒数5.6万人
- ・いじめ(小~高) 22.5万人
- ・少年犯罪 4.0万人

### ② 学校で大切なこと

- ・同じ山に登る=教職員がベクトルを揃える
  - ・モグラ叩きの生徒対応から予防的な生徒対応へ
  - ・教師はホームランバッターより3割バッター
  - ・学校の力=教師の力量の総和×組織力
  - ・進路指導・学習指導は極上の生徒指導
  - ・子どもと子どもをつなげるソーシャルボンド
- ひいては、学級満足度の向上が児童生徒のストレス、攻撃性、いじめ、不登校を減少させ、学力の向上につながる。

### ③ 子どもたちの力を活かしたピアサポートを年間プログラムに位置づける

- ・バースデーライン
  - ・ペアのフルーツバスケット
  - ・ポジティブメッセージ 等
- 児童生徒のコミュニケーション力を向上させることは、不登校の出現率の減少、問題行動の現象、学力の向上などの成果となって現れてくる。

### ④ 満足型学級が児童生徒の学力を向上させる。また、いじめの出現率を下げる

- ・満足型学級(児童生徒の自治能力が育っている学級)
- ・管理型学級(教師が主導し、教師がすべて決めてしまう学級)
- ・なれ合い型学級(教師と児童生徒が友だちのような関係になってしまっている学級)



※内容について詳しく知りたい方は、当所ホームページ「不登校担当教員研修会講義記録」を参照ください。

## 《参加者の声》

- ・学級経営が不登校やいじめの未然防止につながるということがよく分かった。
- ・児童生徒の満足度の高い学級は、いじめが少なく、学力が上がるということを再認識し、やはり学校は学級からだと思った。
- ・日々の支援、ピアサポートの具体例など内容豊かな講義であった。今後の支援を進めていく上で自信を得たように思う。
- ・教員同士のベクトルを揃えることをしっかりと考えて実行していきたい。
- ・子ども同士を意図的につなげていかなくてはつながらないものであるということが分かった。

